

浮島沼 に工業団地を造成

鉄工、紙加工関係など 49企業が進出

浮島工業団地の起工式が、9月3日、浮島沼の大坪新田で行なわれました。

この工業団地の造成は、公害防止事業団によって行ないますが、市街地に混在して騒音や振動などの公害発生源となっている中小企業工場を集団移転することにより、公害問題を解決し生産の向上、作業環境、福祉施設の改善などをはかります。

計画によると団地に進出するのは、鉄工、紙加工、製缶、鋳造、樹脂加工など49企業です。

敷地面積は223.614平方㊦ですが、このうち73㊦に当る163.090平方㊦が企業用地など、26.869平方㊦が道路や水路用地、残りの33.655平方㊦は共同緑地となります。工費は造成費、土地買収費を含め28億5000万円で来年秋には造成が完了する予定です。なお引き続き工場移転が行なわれます。

造成工事は、浮島沼の地盤がゆるいため、地盤沈下を考え大量の土砂を埋め立てます。その上に工場の建設を行ないますが、敷地内はや団地のまわりに緑地帯をつくり、緑に囲まれた工場づくりを行ないます。

なお、造成工事中はダンプカーなどの出入で大変ご迷惑をおかけします。業者には安全運転をするように十分注意してありますが、目にあまるような事がありましたら、浮島団地安全対策協議会（電32-1472）へご連絡下さい。



光のプレゼント アイバンクに協力を

心の鏡と言われる眼を失明し、暗黒の谷間に沈んで一生を終る人達が日本には25万人もいます。人間だれでも五体健全な時には病気を忘れ、人の苦しみも意に介しないものです。あなたがもし一瞬のうちに失明したとしたらどうでしょう。おそらく失意のどん底に気も狂わんばかりになるでしょう。

しかし、進歩した現代医学は眼の见えない人を救うこともできます。それは「角膜移植」で、約25,000人の人達に光と生きる喜びを与えることができます。

全国の病院には角膜移植の手術を受けるため大勢の人達が待っています。

す。しかし、角膜が手に入らないため、2年でも3年でも自分の順番が来るまで待たなければならないのが現状です。

このため、ライオンズクラブではこうした人達に角膜を提供する「アイバンク運動」を進めています。現在、全国で献眼登録者は5万人といわれていますが、その過半数が若い人達で、実際に役立つのは遠い将来の事です。

みなさん、ひとりでも多くの眼の见えない人が、将来に明るい希望を持てるように、アイバンク運動の主旨を理解し、ご協力ください。

アイバンクへの登録は

生前に「私の一生を終ったあと角膜を提供します」と、近親者の同意を得て手続きを行なっていただきます。提供できる眼は、黒眼に星ができたり、雲がかかっていなければ、近視、遠視、乱視の眼でも一向にさしつかえありません。また、年令も無関係です。

なお、申込みや問い合わせは、ライオンズクラブのアイバンク推進委員会へ行なってください。

富士岳南ライオンズクラブ・61-6256

富士吉原ライオンズクラブ・52-4003

富士タカオカライオンズクラブ・71-2534